

様式2 令和3年度 清瀬市立清瀬第四小学校 学校評価表

| | | |
|---------------------|---|---|
| 学校教育目標 | ◆すなおな明るい元気な子 ◆よく考えやりぬく子 ◆なかよく力をあわせる子 ◆自然に親しむ子 | 育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動 |
| 目指す学校像（ビジョン） | ◆家庭・地域社会と共に歩む学校 ◆児童のよさや可能性を存分に引き出し伸ばす学校 ◆教職員が互いに高め合う学校 | 1[自然体験・栽培・観察活動の充実]外部人材を活用した自然体験・栽培・観察活動等の充実により、児童の現実の世界や生活などへの興味・関心を高め、実感を伴った理解を深め、問題発見・問題解決能力等を育む。 2[算数の学力向上、基礎・基本の徹底]全ての学年で本校独自のシステムにより、「東京ベーンック・ドリル」を積極的に活用した指導の充実を図るとともに、個の課題に応じた宿題の設定等により基礎・基本の確実な定着を図る。 3[日常的・継続的取組による体力・運動能力の向上]新しい指導方法を積極的に取り入れ共有することにより体育の授業を改善・充実するとともに、中休みや昼休みを活用して運動遊びの日常化を推進し、児童の体力向上を図る。 4[児童理解の充実と生活指導・学級経営の充実]年3回の「アセス(学校環境適応度)」(4年～)により児童個人及び学級の状態・変容を捉えるとともに、「心と体のアンケート」(3年～)を実施し、それらの結果を生かした生活指導及び学級経営を推進する。 5[教育の情報化の推進]一人1台端末を活用し、情報の即時共有による協働学習や、学習ソフトによる個別最適化された学びを推進するとともに、センシング技術を活用した児童の学びの状況の継続的把握と指導の改善・充実を図る。 6[学校図書館の活用と推進]図書館運営支援員、市内図書館と連携協力し、学校図書館の「学習・情報センター」としての機能の充実を図るとともに、図書委員会による図書の貸し出し及び読書月間の取組等により読書活動を推進する。 |
| 【目指す児童像】 | ◆すなおな心と元気な体をもち児童 ◆協力の気持ちと思いやりのある児童 ◆自分を律しよく考え進んで行動する児童 ◆進んで自然から学ぼうとする児童 ◆児童に対する深い愛情をもち保護者の思いを受け止める教師 ◆明るく元気に児童に【目指す教師像】向かい教えるべきことはきちんと教える教師 ◆児童のよさや可能性を存分に引き出し育てる教師 ◆向上心をもって自己研さんらに励み自らのよさを積極的に生かす教師 | |

前年度までの学校経営上の成果と課題 ・どの学級も授業改善及び個に応じた指導・宿題の設定に積極的に取り組んでおり、特に算数については顕著な成果は上がっているものの、国語の読み取る力や書く力には課題があり、それらを中心に個々の特性や課題等を踏まえた学習活動の設定及び個に応じた指導の一層の充実を図っていかねばならない。・学校全体として落ち着いた学校生活が形成されているとはいふものの、児童の自己肯定感を向上させること及び挨拶ができるようにすることが課題である。・児童同士の協力的な学びの充実を図るとともに、多様な他者と共働して目的に応じた解決策を見付けたり納得解を見いだしたりする力を高めることが課題である。

| 柱 | 具体的方策 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 次年度以降の改善方策 |
|-----------|---|------|-------------------|---|---|---|
| | | 評価 | 課題及び次年度以降の改善方策（案） | 学校関係者による「自己評価」についての評価 | 学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策 | |
| 確かな学力の向上 | 「東京ベーンック・ドリル」の積極的な活用に加え、読み取り・思考ツールを使って考える・考えをまとめる・意見を述べ合う活動と指導の充実を図る。 | 4 | 3 | 全学級で実施した。保護者は「分かりやすい授業づくり」について89.2%が肯定的評価をしている。「この1年間で算数が前よりも得意になった」の児童の肯定的評価は84.4%。「思ったことや考えたことを書くのは楽しい」は61.0%であった。「書く意欲・能力の向上が難しい現状があり、「書くこと」の個別指導とともに学習活動の工夫に取り組んでいく。 | 学校の想いが児童・保護者に伝わっている証。いわゆる「詰め込み式」がいかに学習意欲を削ぐかについて考えさせられる。「書くこと」についての技術的な指導もあるが「思うこと」や「考えること」といった思考力の育成も重要。算数が得意になったという肯定感を高学年になっても継続している事は教員が工夫して授業しているのだと思う。相対的に低い学年もあるが次年度よりなることを期待する。書く意欲については読書だけでなく毎日文章を書くといった習慣作りに取り組んでほしい。 | 東京ベーンックドリルとともに学習ソフトの活用など一人一台端末の積極的な活用により個別最適化された学びを推進していく。また、本校独自の思考ツール・思考スキルを活用した授業を推進するとともに、全学年を通じて「書く」活動を日常的・計画的に明確に位置付けて充実を図っていく。 |
| | 全学級で学習ソフトなどを活用した授業改善を行うとともに、児童の学びの状況を継続的に把握して指導の改善を図る。 | 4 | 4 | Chromebook及び学習ソフト等を組織的に全学級で積極的に活用した。保護者は80.0%が肯定的評価をしている。児童は「Chromebookを使って活動するのは楽しい」は93.5%、「Chromebookを使って、勉強が前よりも得意になった」は78.4%が肯定的評価をしている。今後、さらに実践を積み重ねながら積極的かつ効果的な活用を推進していく。 | 学習ソフト等の利用で、一人一人の基礎学力の向上につながるかの評価・検証結果に注目する必要がある。多くの学校でICT活用が進んでおり、情報の共有に基づく「協力的な学び」について、様々な取り組みが報告され始めている。学校全体での体系的な取り組みを望む。今までと異なる学習方法により、前より得意になった児童が増えたのはよかった。まだ手探り状態だと思うが異みなが学べる状況を継続してほしい。 | アンテナを高めて、他地域・他校の実践等についての情報を積極的に得つつ、Chromebook及び学習ソフトの効果的な活用方法を探り、学校全体としての体系的な取組の充実を図っていく。 |
| 豊かな心の育成 | 挨拶や言葉遣いについて全教育活動を通じて日常的に指導するとともに、縦割り班による朝の挨拶運動を年間を通じて実施する。 | 4 | 3 | 全教職員が指導を行ったが、感染症対策のため朝の挨拶運動はできなかった。児童の自己評価では「進んであいざいができる」の肯定的評価は84.0%、「正しい言葉づかいができる」は75.3%である。挨拶や言葉遣いについての指導は全教職員で共通理解を深め、共通実践を推進していくことが重要であり、今後も学校全体として指導の充実を図っていく。 | 挨拶や言葉遣いはコミュニケーションの基本。コロナ禍の影響で友人同士の関わり方にもこれまではない課題が出てきているのではないかと感じる。これまで以上に、いじめや差別のない学習環境への取り組みを進める必要がある。四小はいつも挨拶ができるイメージがある。挨拶をするとお互い気持ちよくなるものと指導していただけると、思いやりの心ももてるようになると思う。 | 全校児童による挨拶運動など、児童の主体的な取組の一層の充実を図るとともに、TPOLに合わせた適切な言葉遣いができるよう、学校生活の様々な場面を捉え表現の仕方を丁寧に指導していく。また、家庭との連携、共通理解を図り、共通した指導を推進していく。 |
| | 児童に自己のよさや可能性に気付かせ、自尊心や自己肯定感を高める指導及び児童相互の効果的関わりを児童の発達段階に応じて推進する。 | 3 | 3 | 全教職員が指導の充実に取り組んだ。「自分のことが好きだ」に肯定的評価をした児童は60.2%(0.5p低下)、「自分にはよいことがある」は79.7%(1.6p向上)であり昨年度と同程度であった。今後も、児童が自分の力を発揮して活躍できる場を多設し、互いのよさを見付けるとともに違いを尊重しながら認め合うことへの指導の充実を図っていく。 | 自己肯定感を高めることは「いじめ」抑制にもつながる。またそれを跳ね返す力も高まる。自己肯定感を高めるためには、保護者の関わりも重要なポイントと考える。学校での活動や取り組みの様子から、各家庭でのコミュニケーションへまっすぐなことを期待したい。コロナの影響で運動会や学習発表会、演奏会など学習以外での力を発揮し多くの人々に見てもらえる場が少なく、自己肯定感を高めるのが難しくなってきたと思われる。今後は日常生活の中でよい所を本人に伝え自己肯定感をもてるようになってほしい。 | 教員が児童一人一人のよさを取り上げた指導を推進するとともに、学級活動、児童会活動、縦割り班活動、諸行事の係活動、班活動などの活動を見直し改善を図りつつ、児童の活躍などの様子を積極的に家庭に伝え、学校と家庭が連携して「ほめて伸ばす」指導を推進していく。 |
| 健やかな体の育成 | 校内ルール等について教師が範を示して全校体制で指導し、家庭と連携し睡眠時間及び朝食についてのよい習慣の確立を図る。 | 4 | 3 | 児童の「学校のきまりをまもっている」の肯定的評価は83.1%、「早寝早起きなど、よりよい生活に気をつけている」は72.7%である。保護者は、89.2%が「望ましい生活習慣が身に付いている」について、69.2%が「スマートフォンを家庭内のルールを守って使用している」について肯定的な回答をしている。今後も、家庭と連携した指導を一層推進していく。 | 現在、社会全体のモラル低下が叫ばれており、学校と家庭でルールを守ることを身に付けさせるのにも重要。特にスマートフォンやPC持ち帰りに伴う家庭での利用において、ルールが徹底しないと課題がある。子ども自身がルールについての理解を深める指導を期待したい。生活習慣は学校だけの指導では難しく家庭と連携していく事が大事だと思う。オンライン授業が行われる場合、生活が乱れがちになると思われるので一方通行でなく相互に情報を共有できるような環境が作れるとよい。 | きまりの意識について分りやすい指導を日常的に積み重ねるとともに、健康大作戦を実施して望ましい生活習慣確立に向けて取り組んでいく。家庭との連携・共通理解を推進し、ICT機器活用上のモラルやオンライン授業時の生活の在り方についての指導の充実を図る。 |
| | 体力・運動能力の向上に向けた新しい指導方法を積極的に取り入れ体育の授業を改善・充実するとともに、中休みや昼休みを活用した運動遊びの日常化を推進する。 | 3 | 3 | 感染症対策のため今年度も全校児童による運動遊びの取組はできなかった。「天気の良い日は、休み時間に外で遊ぶ」に肯定的評価の児童は61.5%と12p低下した。体力・運動能力の向上は、本校の重点課題の一つでもあり、体育の授業の充実とともに次年度、中休みや昼休みを活用して運動遊びの日常化を一層推進していく。 | 感染症対策を取りながら活動のため、ご苦労が多かったと推察する。状況を見ながら、可能な範囲で工夫を凝らしていただければと思う。運動能力の向上は体育の授業だけでなく、難しいと思われるゲーム感覚で運動遊びを増やしたり、バランスのよい食事、睡眠時間の確保など総合的に考慮していくことが大切だと思う。 | 本校独自の全校体制での計画に基づき、マッスルマンデーなどの昼休み・中休みを活用した取組や学級遊びの充実による運動遊びの日常化とともに、体育主任を中心として体育の授業改善を推進し、それら学校の取組を積極的に家庭に発信していく。 |
| 特別支援教育の充実 | ユニバーサルデザインの視点から教育環境整備・授業改善を行うとともに、自己理解・他者理解・相互理解を進める指導の充実を図る。 | 4 | 4 | 全教職員が指導の充実に取り組む「友達がうまくできなかったりどうしていいかわからなくて困っていたりするときに助けを求められることができる」に肯定的評価する児童は82.5%である。全校的に、それぞれの違い・多様性を受け入れ互いを大切にして共に生きていくことについての指導の成果は上がってきているが課題もあり指導の一層の改善・充実を図っていく。 | 助け合うことが友情を深めることにつながり学級全体の雰囲気もよくなると考える。多様性を認め合うのが大切なこと。今後指導の充実が求められる領域でもあり、継続して取り組みにあたっていただければと思う。それぞれの違いや多様性を受け入れる環境は学校だけでなく家庭での協力も必要だと思うので、学校での取り組み方などを家庭へ公開してほしい。 | 多様な個々の課題を有する学習集団の指導において、学び方を柔軟にらえて授業改善を一層推進するとともに、多様な児童同士の相互理解を深めるための活動の意図的な設定とその工夫・改善について重点的に取り組み、その学校の取組について積極的に家庭に発信していく。 |
| | 全ての教育活動で個の課題・特性に応じた指導・学習活動を工夫するとともに、特別支援教室においては他校と連携しつつチームによる日常的な授業改善を推進する。 | 4 | 4 | 全教職員で取り組んでおり、保護者は「児童の学力向上のため個別の指導や支援に努めている」について86.7%が肯定的評価をしている。また特別支援教室の児童・保護者からは、指導の効果について概ね肯定的な評価を得た。今後、指導方法や指導形態を一層工夫し、指導の更なる改善・充実にも努めていく。 | 児童の特性によっては、ICT活用で効果が上がる事例も報告されているので、他校との連携の元、継続して充実に取り組んでいただければと思う。四小は少人数のため個別指導や支援が行われている方だと思う。今後も他校と連携してよりよい指導を行ってほしい。 | 学校の枠を超えて他校教員、巡回相談員、教育相談室、とことごと一層連携して児童理解や指導改善を進めるとともに、担任と担当教員との日常的な緊密な連携により、個々の課題に応じた適切な学習課題・学習活動の設定、ICTの効果的活用について改善・充実を図っていく。 |
| 本校の特色 | 空堀川、せせらぎ公園を積極的に活用した自然体験活動及び栽培活動において、年間ボランティアを活用した学習活動を推進する。 | 4 | 4 | 全学年合わせて約70回以上の学習活動を実施し、「生き物などの自然や環境のことを勉強するのは楽しい」についての肯定的評価をした児童は80.1%である。次年度も、児童の自然環境や生命を尊重する態度、問題発見や問題解決能力の育成等を推進する観点から、自然体験・栽培・観察活動の充実を図っていく。 | 机上で学ぶことも大事だが、実際に見せ触れさせることから学習させるのはとても大事。学校の特色が活かされた活動が行われており、今後も継続してほしい。生き物や自然を通して問題の発見や解決能力が育成できるとよいと思う。また川が学校のそばにあることで、水害などの防災の知見についても学んでほしい。 | 学校全体の自然体験・栽培・観察活動全体を担当する教員を置き、年間を通してボランティアを活用した学習活動を設定するとともに専門的知見に優れた地域人材の活用を一層推進し、活動内容の改善・充実を図っていく。 |
| | 問題解決的又は体験的な学習等を取り入れて計画的に道徳の授業を実施するとともにその改善を図る。 | 4 | 4 | 全ての学級で取組は行っており、「道徳の時間に、人が生きていく上で大切なことについて、よく考えることができた」についての肯定的評価をした児童は80.1%である。今後も、児童が自ら考えたくなる授業づくりを中心として、「考える道徳」議論する道徳への授業改善を一層推進していく。 | 道徳教育の充実人間力をUPさせるために大変重要。「問題の発見」は、AIが進んでも難しい領域といわれている。道徳での「考える」活動が、他の教科でも展開できることを期待する。道徳の時間だけでなく体験的学習により、実践して議論する方法などができればよいと思う。 | 授業観察や授業研究、道徳教育推進教師を中心とした教材等のデータの共有化を図るとともに、各学級が道徳の授業の通信を発行し、「考える道徳」「議論する道徳」への授業改善と家庭と連携した道徳教育を一層推進していく。 |